

2021年度事業計画

「社会の中で園長会の役割を明確にする」

コロナ禍においては、その感染予防対策から園の特徴が強調され、安心安全に配慮する様子が保護者や就職希望者に伝えられました。昨年度の養成校の就職状況は、一般企業に就職する数が減り、保育園への就職が増えたとの報告もあります。今後は、社会が二極化する中で私たちが担う役割を考え、SDGsのような継続的な支援を行い、保育士を目指す学生にまで連携の輪が広がれば、保育園こども園の社会的役割が明確になってきます。

1、SDGs の取り組み

SDGs 17の目標の1～4(貧困をなくそう、飢餓をゼロに、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに)には、保育園こども園が主体的に活動できる目標が掲げられています。この目標に向けて社会と連動した取り組みが必要になります。フードロス削減、アルバイトが困難な学生への支援、フェムテックなどの女性支援を立ち上げ、保護者支援は勿論、園長会として社会全般に支援を行える機能を備えて参ります。

2、特別業務手当、災害待機手当の支給

年々、施設長の責任が増しています。勤務時間外においても、様々な関係者からの連絡があり、携帯の電源をオフにできる時間がありません。帰宅後や休日には、職員の病気や職員家族の感染の情報、災害(台風など)の対策も入り、翌日の勤務の調整に時間を割く事も珍しくありません。その園の最高責任者には、特別業務手当として災害待機手当が必要と考えます。

3、兄弟児の同一園入園へ更なるポイント加算

兄弟児が同一園に入園できる確率は、横浜市は、約90%とのことですが、10%の保護者が兄弟別々の園に通う現状は評価できる範囲ではありません。働き方が多様化する中で、現行の入園判断基準には限界があり、更なる柔軟性が必要と考えています。目標としましては、兄弟児同一園入園の確率を95%までは高めたいと考えます。横浜市と共に対策を考えて参ります。

4、キャリアアップ研修

まずは、対面で幼児教育の研修を始め、順次感染状況を見定めながら安全に研修を再開して参りたいと思います。

5、優良職員表彰

優良勤務者に対する表彰を継続させていただきます。

6、就職相談会

日石ホールにおきまして、対面式就職相談会と同時に YouTube ライブを行います。

7、養成校ガイダンス

感染予防対策リーフレットを活用しながら、保育園こども園の安全性を説明して行きます。

2021年度 要望書（案）

兄弟児の同一園入園の割合を現在の90%から95%に引き上げられるよう、入所時の審査のポイント加算を見直す事

待機児童対策重点地域＝保育士確保対策重点地域とし、保育士確保に具体的対策と予算を充てる事

保育士を志す学生に対して、養成校との連携を深め、学生の貧困を避けるべく対策を園長会と共に具体化する事

緊急事態宣言、災害警報など、常に災害や感染症に24時間対応している現状から、施設の最高責任者には、災害待機手当の支給をお願いする

インフルエンザ感染症と同じく、コロナ感染症から回復した後の再登園時には、PCR 検査での陰性証明書を持つての再登園を義務付けること(保護者も同じとする)

食物アレルギーを持つ児童の増加から、保育所、こども園で働く栄養士加算の引き上げをお願いする

委託費の当月払いを引き続き検討するようお願いする